新潟市立小針小学校

こばりの子

令和４年１１月１７日発行
No. 7
児童数６６２名

大人の姿勢

校　長　　山田　哲哉

私にもし「思いやり」という道徳性が備わっているとするなら，その原点は，中学校２年生まで同居していた母方の祖母の姿勢にあります。

幼いころ，祖母と電車に乗って市日に出掛けました。帰りの電車を待ちながら，祖母と私は駅のベンチに座っていました。そこに，行商の方でしょうか大きな風呂敷包みを重そうに背負った年配の女性（といっても祖母よりは随分若い）が歩いてきました。すると，なんと祖母は，その方に席を譲ったではありませんか。困っている人を見たら，放っておけないのです。祖母は当時70歳近くだと思います。すっかり腰が曲がって，体は「く」の字のようでした。席を譲られることはあっても，その逆はあり得ないと，子ども心に感じました。この体験が，私の道徳性の原点だと認識しています。

私にもし「自律性」が備わっているとするなら，その原点は，父から贈られた一体の「こけし」にあります。

小学校教師だった父は，クラスの子どもの誕生日に，木ぎれを削った自作のこけしをプレゼントしていました。その子どもの顔を描き，メッセージを体に書くのです。私が高校２年生のとき，父は，私にもこけしをプレゼントしてくれました。今も書斎に飾ってあるそのこけしの体には，**「自分を見失うことなかれ」**と書いてあります。

高校生や大学生のとき，そのこけしは本棚に飾っておいたのですが，時々，不思議なことが起こりました。こっちを向いていたはずのこけしが，横を向いていたり，後ろを向いたりしていたのです。こけしが動いていると感じるのは，決まって，何か悩みを抱えていたり，自堕落な学生生活を送ったりしているときでした。無口な父が，こけしを介して「自分を見失うなよ」と励ましたり，戒めたりしているように思えました。向きの変わったこけしを見ては，父のメッセージを心に刻み直しました。

こけしが動いたのが気のせいなのか，だれかが動かしたとしても，それが父なのかは分かりません。しかし，心を動かしたのは，紛れもなく父のメッセージです。

ちなみに，父が私の息子（つまり孫）の１７歳の誕生日に贈ったこけしには，こう書いてあります。

「健全な　意志を貫け　たが締めて　労苦しのげば　後ろ安しだ」

大人（親）の生き方や人への接し方を，子どもはちゃんと見ています。

不寛容，物事や人に対して批判的，攻撃的，上から目線，噂好き，傲慢，神経質等の大人（親）の姿勢を，子どもは敏感に察しています。知らず知らずのうちに，それが刷り込まれていくかもしれません。

寛容，人に優しい，大らか，思いやりにあふれている，謙虚，誠実，前向き，慈愛に満ちている等の大人（親）の姿勢もまた，子どもは日々感じています。このような大人（親）のもとでは，そういう子どもが育っていくことでしょう。

子どもに望む姿を大人（親）自身ができているか，生き方，姿勢，人への接し方等を自己点検してみませんか。